

令和7年度 事業計画

基本理念

『鹿寿苑は

まごころのこもったサービスと

安心して暮らせる施設を目指します。』

「気づきと行動」

「責任」

「地域交流」

目指す目標

「気づきと行動」…一人ひとりの価値観を尊重したサービスの提供

「責任」…社会的責任と資質の向上

「地域交流」…地域から親しまれる施設

基本理念

目指す目標

具体的取組（令和7年度 重点方針）

鹿寿苑は、まごころのこもったサービスと安

心して暮らせる施設を目指します。

「気づきと行動」「責任」「地域
交流」

1 「気づきと行動」 一人ひとりの価値観を尊重した サービスの提供

ICT (Information and Communication
Technology) 「情報伝達技術」
IoT (Internet of Things)
「モノのインターネット」

2 「責 任」 社会的責任と資質の向上

3 「地域交流」 地域から親しまれる施設

1. 利用者一人ひとりの理解を深め、ニーズに応じたサービスの提供

- (1) 多職種協働の包括的支援（チームケアの充実）
 - ①利用者主体の生活の提供を目指す『私らしく安心して暮らせる住まいづくり』
 - ②「科学的介護情報システム（L I F E）」を活用した質の高いチームケアの実践（栄養ケア、口腔ケア、個別機能訓練）
 - ③利用者の意向に沿ったケアプランの作成
 - ④ユニットケアの特徴を活かし、利用者個々を深く理解し共感する（第二鹿寿苑）

2. 利用者の満足度の向上

- (1) 「苦情・要望」の積極的受入。共有と透明性、説明責任、「受付事例」の活用
- (2) 利用者満足度調査の実施とその対応

3. 安全で安心して暮らせる環境の整備と感染予防をはじめとしたリスク管理の徹底

- (1) 感染予防・食中毒防止（『持ち込まない・持ち出さない・拡げない』）の徹底
- (2) K Y T 〈危険予知トレーニング〉、S H E Lモデルを活用した気づきの向上
- (3) 「ひやりはっと」の分析と対応策の検討による事故の再発の防止
- (4) 防災意識の向上と訓練の実施（火災、地震、水害想定）
- (5) 事業継続計画（B C P）に基づいた災害、感染症に強い体制づくり
- (6) ICT、IoTの活用による業務の効率化の実施とリニューアルにむけた具体的な目標設定
- (7) 防犯対策の取り組み

1. 人材育成「鹿寿苑職員としての責任と誇りを持ち、やりがいのある職場を目指す」

- (1) 階層別（新人・中堅・リーダー等）研修の実施
- (2) 中長期計画に基づいた職員育成プログラムの実施と資格取得の推進
- (3) テーマを決め、介護技術、相談援助技術など専門性の向上に取り組む
- (4) 利用者満足、職員満足につながる良い接遇を目指す
- (5) 高齢者虐待の芽・不適切ケアゼロ。身体拘束、スピーチロックゼロを目指す
- (6) 心身ともに健康で働ける職場環境
 - ①ハラスメントの防止
 - ②メンタルヘルスケアの実施
 - ③様々な年代がやりがいをもって働ける環境づくり
 - ④介護機器（リフト、トランスファーボード）の活用によるノーリフトケア（抱えない・持ち上げない）の実施による腰痛予防の推進

2. 信頼される施設経営

- (1) 健全経営、効率的な施設運営（確実なる稼働率の向上、経費削減）
 - ①目標を目指した稼働率の向上
 - ②光熱水費・消耗品等の経費削減の推進（在庫管理の徹底）
 - ③経営状況の各職員への周知

1. 新しい生活様式に基づいた地域との関わり・地域貢献

- (1) ボランティアの新規受け入れの検討、実施。福祉を目指す実習生の受け入れ
- (2) 職員ボランティアの実施。認知症や介護を理解してもらうための地域貢献活動
- (3) 地域、町との連携の強化
- (4) 広報誌・鹿寿苑ホームページを活用した情報発信

事業計画

《重点方針》

1. 利用者一人ひとりの理解を深め、ニーズに応じたサービスの提供

(1) 多職種協働の包括的支援（チームケアの充実）

- ① 利用者主体の生活の提供を目指す『私らしく安心して暮らせる住まいづくり』
- ② 「科学的介護情報システム（L I F E）」を活用した質の高いチームケアの実践（栄養ケア、口腔ケア、個別機能訓練）
- ③ 利用者の意向に沿ったケアプランの作成
- ④ ユニットケアの特徴を活かし、利用者個々を深く理解し共感する（第二鹿寿苑）

2. 利用者の満足度の向上

- (1) 「苦情・要望」の積極的受入。共有と透明性、説明責任、「受付事例」の活用
- (2) 利用者満足度調査の実施とその対応

3. 安全で安心して暮らせる環境の整備と感染予防をはじめとしたリスク管理の徹底

- (1) 感染予防・食中毒防止（『持ち込まない・持ち出さない・拡げない』）の徹底
- (2) K Y T（危険予知トレーニング）、S H E Lモデルを活用した気づきの向上
- (3) 「ひやりはっと」の分析と対応策の検討による事故の再発の防止
- (4) 防災意識の向上と訓練の実施。（火災、地震、水害想定）
- (5) 事業継続計画（B C P）に基づいた災害、感染症に強い体制づくり
- (6) I C T、I o Tの活用による業務の効率化の実施とリニューアルにむけた具体的な目標設定
- (7) 防犯対策の取り組み

4. 人材育成「鹿寿苑職員としての責任と誇りを持ち、やりがいのある職場を目指す」

- (1) 階層別（新人・中堅・リーダー等）研修の実施
- (2) 中長期計画に基づいた職員育成プログラムの実施と資格取得の推進
- (3) テーマを決め、介護技術、相談援助技術など専門性の向上に取り組む
- (4) 利用者満足、職員満足につながる良い接遇を目指す
- (5) 高齢者虐待の芽・不適切ケアゼロ。身体拘束、スピーチロックゼロを目指す
- (6) 心身ともに健康で働ける職場環境
 - ① ハラスメントの防止
 - ② メンタルヘルスケアの実施
 - ③ 様々な年代がやりがいをもって働ける環境づくり
 - ④ 介護機器（リフト、トランスファーボード）の活用によるノーリフトケア（抱えない・持ち上げない）の実施による腰痛予防の推進

5. 信頼される施設経営

- (1) 健全経営、効率的な施設運営（確実なる稼働率の向上。経費削減）

- ① 目標を目指した稼働率の向上
- ② 光熱水費・消耗品等の経費削減の推進（在庫管理の徹底）
- ③ 経営状況の各職員への周知

6. 新しい生活様式に基づいた地域との関わり・地域貢献

- (1) ボランティアの新規受け入れの検討、実施。福祉を目指す実習生の受け入れ
- (2) 職員ボランティアの実施。認知症や介護を理解してもらうための地域貢献活動
- (3) 地域、町との連携の強化
- (4) 広報・鹿寿苑ホームページを利用した情報発信

I. 施設サービス課

1. 特 養（指定介護老人福祉施設 定員：90名） 稼働率目標：97.7%

『私らしく安心して暮らせる住まいづくり』

～穏やかに最期を迎えるまで～

(1) 生活相談

- ① 入居者・家族のニーズが充足できるようなPDCAの確立
 - ア. ケアプランの作成（更新・定期評価・入居時・状態変化・看取り時等）
LIFEフィードバックを取り入れたプランの作成、PDCAサイクルの構築
記録システムの活用
多職種協働による口腔衛生管理体制加算の実施
 - イ. カンファレンスの開催（更新・入居時・状態変化時・看取り等）及び会議内容の充実、看取りケアにおける過程の重点化
 - ウ. 経過確認（計画・実施・評価・修正）
 - エ. 個別面談の実施による意向確認（入居者・家族）
- ② 入居者・家族、その他医療機関等との「信頼関係」の充実
 - ア. 家族会の活用（家族会通信の発行、入居者個々の写真付きメッセージの郵送、総会、懇談会等の実施）
 - イ. 多職種と連携を図り、必要時に家族へ状態報告を行う
 - ウ. 医療機関や他関係機関との報告・連絡・相談を的確に行う
- ③ 90名の入居者定員の維持、確保に努める
 - ア. 入居者90名の定員を維持するために新規入居者の確保や入院者の

状態確認、入居待機者の意向確認等を迅速に行う

(2) 介 護

① フルサービスを合言葉に利用者主体のケアの実施

『フルサービス』

ハートフル：まごころのある、心温まるようなケアの実施

スマートフル：洗練された、気のきいた、丁度よいタイミングで

フルスマイル：最高の笑顔で

② 職員スキルのスキルアップとユニット力の向上

ア. 年間計画による勉強会開催、事例検討の実施

イ. フロア会議、班編成による情報共有及び生活課題への迅速な対応

ウ. 利用者が安心できる接遇、心のこもったサービスの実施

エ. ノーリフトケア（抱えない・持ち上げない）安全安楽な介護技術の実施

オ. 認知症の理解と認知症介護の実践

③入居者にとっての『私らしい生活』を考え、穏やかな生活への支援の実施

ア. 介護職としての専門性を活かしたQOL向上を目指した質の高いサービス、ケアプランに基づいたサービスの提供

イ. 『私らしい看取り』を考え、多職種協働にて本人・家族への看取りの実施

ウ. 利用者の状態の変化に速やかに気づくことができる観察力をもち、多職種間の報連相を徹底することで、入院につながるリスクの軽減をはかる

エ. 口腔衛生管理体制加算による口腔ケアの実施

オ. LIFE、記録システムの活用

(3) 健康管理

①健康管理と異常の早期発見と早期対応

ア. 異常の早期発見と異常時の嘱託医への状態報告及び往診指示の対応

イ. 健康診断・定期採血の実施と結果に応じた対応（家族への意向確認等）

②集団感染予防及び二次感染予防

ア. 感染委員や多職種と連携を図り、集団感染防止に努める

イ. 各感染予防マニュアルに沿って委員会と協働し教育、指導を行う

③ 本人と家族にとっての穏やかな看取りの実現

ア. 看取りの段階に応じたカンファレンスの実施

イ. 本人と家族が共有する時間を過ごせる環境整備（居室変更・状況に応じた面会等）

ウ. 看取りパンフレットを活用し、家族の理解や不安の軽減に繋げる

エ. 看取りについての勉強会の実施及び看取りパンフレットの見直し

④多職種連携による勉強会開催

- ア. 経験年数に応じた教育・アドバイスの実施（緊急時対応・疾患）
- イ. 看護の研修内容の伝達学習や勉強会の実施
- ウ. 口腔ケア、皮膚ケアを多職種で取り組み、状態低下予防に努める
- エ. 口腔衛生管理体制加算の実施
- オ. L I F E、記録システムの活用

2. 短期入所生活介護（ショートステイ定員：10名）

稼働率目標：5.0人／日

『利用者の希望に添ったサービスの提供の実施』

① 短期入所生活介護サービスの充実

- ア. 利用者・家族ニーズに添ったケアプランの作成・実施及び評価
- イ. 担当ケアマネジャーとの連携（利用状況の報告・計画変更の提案）
- ウ. 感染症を持ち込まない受け入れ態勢の継続
- エ. 長期利用者の受け入れ

3. 栄養管理

（1）給食管理：安心・安全な食事の提供 季節感ある美味しい食事の提供

- ① サイクルメニュー見直し及び行事食の実施
- ② 感染症・食中毒発生時及び災害時の献立見直し
- ③ 真空調理、調理業務及び盛り付けマニュアル見直し
- ④ 定期的な在庫管理、食品管理と食費と食数の把握
- ⑤ 衛生自主点検表やマニュアルの見直し
- ⑥ 冷蔵庫等の機器の点検、異常時の対応

（2）栄養管理：多職種連携による食事提供及び食事箋の発行

栄養ケアマネジメントの充実

- ① 多職種連携によるミールラウンドの実施及び食事会議、カンファレンスや食事検討会の実施、利用者に応じた食事の提供
- ② 療養食加算、約束食事箋、食種別栄養所要量の見直し
- ③ 栄養士業務マニュアル見直し及び統一
- ④ 口腔衛生管理体制加算による口腔ケアの実施
- ⑤ L I F E、記録システムの活用

（3）人事管理：職員の能力に合わせた指導、作業の見直し及び改善。職員の定着

- ① 目標の明確化、業務内容の標準化、マニュアル作成
- ② 施設内外部研修会やウェブ研修会への参加、能登地区福祉栄養士との連携

II. 地域密着型施設サービス課

1. 第二鹿寿苑（地域密着型介護老人福祉施設 定員：29名）

稼働率目標：97.0%

『くらしいきいき、こころのびのび、いつもあなたと共に（基本理念）』

くらしいきいき：今までの暮らしが続けられるようにします

こころのびのび：地域と心をつなぎ、共に育んでいきます

いつもあなたと共に：家庭的な雰囲気と共に過ごす時間を大切にします

（1）「ユニットケア」による充実したサービスの提供

- ① 職員一人ひとりのユニットケアの知識の習得
- ② 基本理念の共通理解

（2）暮らしの継続の追求

- ① 多職種連携により「今までの暮らし」を継続できる体制の確立
- ② 自律した暮らしの場の提供
- ③ 科学的介護情報システム（LIFE）を活用した質の高いチームケアの実践

（3）入居者・ご家族・職員の安心の関係作り

- ① 職員のユニット固定配置で細やかな関わりをもつことで、安心・信頼関係の構築
- ② 家族との顔が見える関係作り
- ③ 広報活動による情報の発信

（4）「いきいき」働ける職場作り

- ① 職員一人ひとりを認め、やりがいを感じ、各段階で「伸びる力」を高めることができる環境づくり
- ② 「スキルアップ計画書」を活用した目標設定と評価の実施
- ③ ユニット単位の「目標設定シート」を活用し、目標に向けたやりがいのある取り組みの実施と評価

（5）地域とのつながり

- ① 地域行事への参加や季節に応じた外出支援
- ② 面会や来苑者の制限緩和に向けた検討と実施

2. グループホーム（認知症対応型共同生活介護 定員：9名）

稼働率目標：98.0%

『認知症を理解し、入居者の方に寄り添う住まいづくり』

（1）入居者・家族の想いが反映されたケアプランの作成とサービスの提供

- ① 利用者をより深く理解するための情報の再収集
- ② ケアプランの作成、モニタリングの実施

- (2) 四季を感じ、「食」を楽しむ生活
 - ① 誕生食や季節感を感じる行事食の充実
- (3) 家族との信頼関係を深め、要望が言いやすい関係づくり
 - ① 電話やメールを活用し、こまめな状態報告やご家族の希望の聴取
 - ② グループホームだよりの発行（毎月）とホームページでの情報発信
 - ③ アンケートによる意見の吸い上げ
- (4) 他部署との交流
 - ① 施設の特性を生かした特養との交流、情報交換、緊急時対応
 - ② 栄養会議（1回／月）の開催
- (5) 職員の資質の向上
 - ① 認知症への理解を深め、認知症ケアの充実
 - ② 身体拘束廃止、虐待防止への取り組み
- (6) 地域との交流
 - ① 外出や地域行事への参加、地域との交流
 - ② 運営推進会議（1回／2か月）、笑顔の友の会（2回／年）の開催を通じて、地域の方や他施設の方との意見交換・情報交換
 - ③ 火災や災害時を想定した訓練への地域の参加や協力の依頼

Ⅲ. 在宅サービス課

1. デイサービス（定員25名） 稼働率目標：22人／日

『利用者の自立支援を目指したサービスの提供』

利用者、家族からデイサービスを利用したことで「来てよかったわ、ありがとね。と言われるようなデイサービスを目指す

- (1) 利用者のニーズに応じたサービスの提供
 - ① 利用者、家族に寄り添い、様々なニーズや価値観に合わせたサービスの提供
 - ② 家族、介護支援専門員、関係事業所との連携を図りケアプランに沿ったサービスの提供
 - ③ ICTの活用。「LIFE」により収集、蓄積したデータを活用しエビデンスに基づいた介護の実践、「ケアプラン連携システム」の導入による業務の効率化、記録システムの活用
- (2) 利用者・家族への在宅生活支援事業
 - ① 家族介護者教室1回／年

- ② 健康講座（４回／年）、
- ③ 栄養講座（２回／年）
- ④ 法話の実施（随時）
- ⑤ ほほえみ便り・昼食の献立の配付
- ⑥ ブログの活用

（３）職員の資質の向上

- ① 報告、連絡、相談を徹底し情報共有を図る
- ② 専門分野を活かした勉強会を通し、お互いに協力しやすい体制を作る
- ③ 施設内、施設外研修を通じた職員の育成

２．訪問入浴介護

稼働率目標：４人／日（２日／週）

『利用者、家族との絆を大切にし、
状態に応じた安心、安全で喜ばれるサービスの提供』

- （１）居宅介護事業所や家族、その他関係機関との連携を図り、情報共有によるサービスアップを図る
 - ① ニーズに応じた柔軟な対応と関係機関と連携を図り、看取りや重度の方の
新規受け入れを継続する
- （２）利用者や家族との信頼関係を築く
 - ① 家族の方の不安や相談を受け、アドバイスを行い、介護負担の軽減に努める
 - ② 看取りや重度の方など、個々に応じた安全・安楽な入浴の実施
- （３）コスト意識を持って安定した事業の継続
 - ① 入浴車の安全管理（ボイラー点検、確認・設備点検、水タンク清掃）
 - ② タブレットの活用
- （４）職員のスキルアップと業務改善を図り効率化を目指す
 - ① スキルアップを目指した毎月の勉強会の実施
 - ② 訪問時にタブレット持参し、迅速な情報の共有・収集に努める
- （５）感染症の対応の徹底
 - ① 職員、利用者、家族の体調確認、職員の衛生管理、入浴者の衛生管理の徹底
 - ② 訪問看護等医療関係者との連携を図り、的確な感染予防に努める
 - ③ 感染症の勉強会の実施
- （６）BCPを活用
 - ① BCPに沿った感染、災害時の対応を徹底する

３．配食サービス

稼働率目標：１４食／日

『中能登町「食」の自立支援事業に基づき、栄養バランスの摂れた食事の提供と確実な安否確認の実施』

- (1) 衛生管理を徹底し、利用者に喜んでもらえる食事の提供により栄養改善を図る
- (2) 安否確認と異常時の早期対応（関係機関との連携）
- (3) お弁当便りの発行（1回／月）

4. 居宅支援（居宅介護支援事業所）

ケアプラン計画作成目標：介護 1 3 5 件／月
予防 3 8 件／月

『利用者が自宅、地域において生き生きと安心して生活を送ることができるように、利用者の意思、その人らしさを尊重した居宅サービス計画の作成』
『誠意ある対応で、利用者及び他事業所から信頼される事業所を目指す』

(1) 質の高いケアマネジメントの実施

- ① 利用者、家族のニーズに的確に応え、信頼関係を深め構築する。自立支援の理念に添ったケアプランを作成する
- ② 事例検討、ケアプラン点検をおこない、課題分析力の向上と適切なプランニングを行う。
- ③ 実習生の受け入れ。

(2) 住み慣れた地域での生活が継続できるように、地域との連携を強化し、ネットワークの一員として動く

- ① 地域のサロン等（青空カフェ）の活動に参加する
- ② あじさい会、キャラバンメイトの活動を通し地域の方々の理解を深める
- ③ 目標設定会議に参加し課題を把握、実践する

(3) 職員個々の質の向上

- ① 自己研鑽の取り組み（専門誌購読、ケアマネ協会等の研修会、勉強会）
- ② ワークライフバランスのとれた働き方の推進

(4) ケアプラン作成件数 1 7 3 件（介護：1 3 5 件・予防 3 8 件）

- ① 様々の方面からの新規を受け付ける（ターミナル、困難事例の受け入れ）
- ② 適切な業務運営、給付管理を行う

- ③ 業務の効率化（ケアプラン連携システムの導入、ICT が活用できる環境作り）

IV. 管理課

1. 庶 務

正確で迅速な事務運営を行い、法人及び個々の健全な事業経営をサポートする。

（1）経常経費の節減

- ① 現況報告による周知の継続（課長会議・合同会議で1回／月）
- ② 共通消耗品の在庫管理
- ③ 経費節減案の提案
- ④ 光熱水費の節減

（2）経営基盤強化サポートの実施

- ① 月次報告で予算執行状況や月次繰越金等を報告
- ② 職員への会計研修会の実施

（3）業務効率化・デジタル移行

- ① 現金預金管理の見直し

（4）接遇の向上

- ① 窓口としての来客対応と電話対応のスキルアップ
- ② 職員とのコミュニケーションがとりやすい環境づくり

V. 各種委員会

1. 入居検討委員会

公正で透明な入居順位の検討及び決定

（1）入居検討委員会の開催（適時）

2. リスクマネジメント委員会

日頃から事故分析を活用することで、事故の再発を防止し、軽減を図る

（1）「事故・ひやりはっと」の分析と対応策の検討

- ① 報告書を集計、分析し、再発防止に努める

（2）KYT、SHELモデルを活用した職員の気づきの向上

- ① 係内研修会の実施によりレベルの向上をはかる

（3）職員の施設外研修の受講による新しい情報の取得と、職員への周知・伝達の実施

3. 身体拘束廃止委員会

身体拘束、スピーチロック、不適切ケアのゼロを目指す

（1）職員全体への基本知識の周知と委員のスキルアップ

- ① 施設内研修の実施（年間２回）
- ② 外部研修への参加

（２）身体拘束、スピーチロック、不適切ケアのゼロに向けての取り組み

- ① アンケート実施による現状把握と検討及び周知徹底
- ② 月曜日を強化デイとした意識付けと毎日の唱和の継続
- ③ ポスター作成、掲示による意識付けの継続

４．虐待防止委員会

高齢者虐待の芽・不適切ケアゼロを目指す

（１）基本知識の職員への周知と委員のスキルアップ

- ① 施設内研修の実施（２回／年）
- ② 外部研修への参加

（２）虐待の芽・不適切ケアゼロを目指した取り組みの実施

- ① アンケートや自己チェックリストを通した課題の抽出
- ② 課題の明確化と課題解決

５．広報委員会

広報誌・ホームページを通した、地域の方々への情報発信と地域貢献を図る
事業所の雰囲気や伝わるような情報を発信し、地域の方の理解を深めてもらうとともに
就職希望者へのアピールの実施

（１）「鹿寿苑だより」の発行（２回／年：６月・１２月）

- ・ わかりやすい、伝わりやすい、明るい紙面づくり

（２）ホームページの活用

- ① 法人の情報、告知などタイムリーな更新をおこなう
- ② 苑内行事や取り組み、日常のひとコマをブログ発信する
- ③ 職員募集要項など就職サイト内の充実

６．地域交流委員会

地域から親しまれる施設づくり

（１）地域との交流、ボランティアの新規受け入れの検討

- ・ ボランティアの新規受け入れの検討
- ・ 地域の皆様にむけた情報発信

（２）ボランティア活動に対する職員の意識向上

- ・ 職員ボランティアの実施
- ・ ボランティア受け入れ施設職員としての意識改革
- ・ 認知症サポーター養成講座の開催

7. 接遇委員会

利用者満足、職員満足につながる良い接遇を目指す

- (1) 苑内研修の開催、施設外研修への参加
- (2) 朝の唱和の継続、ハッピーフラワープロジェクトの継続または、新たな取り組みの実施。
- (3) 自己評価

8. 感染予防委員会

感染症への理解を深め、予防対策実施への意識向上を図る。

業務の中で継続的に感染予防対策ができ、集団感染発生を防ぐ。

- (1) 基本的な感染予防対策の徹底 (『持ち込まない・持ち出さない・拡げない』)
 - ① 手洗い、アルコール消毒の徹底
 - ② 換気の徹底
 - ③ 環境整備 5 S (整理・整頓・清潔・清掃・習慣) の徹底
- (2) 職員教育による感染予防に対する意識の継続と対応力向上
 - ① 職員が感染源にならないための生活習慣、健康管理の徹底
 - ② 各セクションでの情報共有及び伝達と勉強会の実施
 - ③ シュミレーションの実施による実践力・応用力の向上
- (3) 感染発生時に備えた体制作りの強化
 - ① 各感染マニュアルの見直し
 - ② 業務継続計画 (BCP) の内容に関する研修会開催
- (4) 感染症状況などの情報発信
 - ① 全国・県内・地域における感染症発生動向の確認
 - ② 職員への情報発信

9. 安全衛生委員会

職員が安心して働くことができる職場づくり

労働安全法や労働基準法などの法令を順守し、労働環境を守る

- (1) 安全衛生管理計画の策定・実施
 - ① 健康診断の実施
 - ② 集団感染の予防
 - ③ 交通安全
 - ④ メンタルヘルスの取り組み
 - ⑤ メンタルヘルスの現状分析
 - ⑥ 職場環境アンケートの実施
 - ⑦ 腰痛予防対策の実施

(2) 安全衛生管理自主点検の実施

① 労働基準監督署への報告

10. 研修委員会

一人一人の資質の向上を図り、組織力を高める

鹿寿苑の職員としての自覚と誇りを持ち、心身共に健康に働ける職場環境を作る

(1) 人材育成の実施（新人研修、キャリアパス対応生涯過程研修）

① スキルアップ計画を基本に、評価の実施。面談技術の向上

② 職員育成プログラムに沿った新人職員の育成

(2) 専門職としての知識、技術の向上（介護力・相談援助技術）

① 派遣研修、施設内研修、係内研修それぞれの利点を活かした研修の実施

② 委員会主催の施設内研修への助言、協力

(3) 腰痛予防やメンタルケアを通して、職員が心身ともに健康に働ける職場づくり

11. 防災委員会

施設における利用者の安全確保、防災環境の整備及び火災・震災その他の災害の予防に取り組む

災害が生じた際、適切な行動が取れるよう、防災訓練やBCP運用を通じ防災意識の向上と理解を深める

(1) 防災計画

① 利用者の人命安全対策

② 自衛消防隊の編成及び運営

③ 火災予防及び防災対策

(2) 予防管理対策

① 予防組織（火元責任者の配置・鹿寿苑自衛消防隊の編成）

② 防災設備等の自主点検（1回／月）

③ 専門業者による防災設備及び消火設備の点検（2回／年）

④ 防災備品の確認や災害時の燃料確保や維持等

(3) 防災教育及び訓練、防災設備等の取扱いの理解

① 総合訓練（夜間火災想定・第二鹿寿苑のみの夜間火災想定・
デイサービスのみの日中火災想定・日中災害想定）

② 通報訓練（鹿寿苑・第二鹿寿苑）

③ 消火訓練

④ 防災設備及び消火設備（スプリンクラー・消火器等）の取扱い指導

⑤ シェイクアウトいしかわ（防災訓練）の参加

⑥ 防災研修・防災士講習

⑦ 災害対策会議の実施

(4) 地域、町との連携強化

- ① 西馬場地区との連携
- ② 福祉避難所としての受け入れ体制の整備
- (5) 業務継続計画（BCP）
 - ①業務継続計画（BCP）の周知と理解
研修・訓練の実施
 - ②業務継続計画（BCP）の検証と見直し
- 1 2. 中長期計画実行委員会
鹿寿苑中長期計画の実施及び見直しと更新
 - (1) リニューアル部会
 - ① 鹿寿苑長寿命化計画を基に内容の確認と検討及び更新
 - ② 経費節減案の検討と実施
 - (2) 人材育成部会
 - ① 職員チェックリストの活用
 - ② 多職種業務の一覧化と整理整頓
- 1 3. 苦情解決組織
「苦情・要望」等の積極的な受け入れと対応
 - (1) 苦情の積極的受け入れ
 - ① 職員間の共有と説明
 - ② 対応策の検討
 - (2) 内容の公表（苑内掲示、広報紙）
- 1 4. 家族会事務局（特養・グループホーム・第二鹿寿苑）
利用者家族との連携及び親睦を図り、利用者サービスの向上を図る。
 - (1) 感染症の状況に応じた家族会総会・家族会行事の企画
 - (2) 家族会通信の発行
- 1 5. 人事考課
人事考課による人材育成
 - (1) キャリアパスによる職員育成を考慮した目標達成評価（スキルアップ計画）
 - (2) 階層別の自己評価表を用いた人事考課の実施

VI. 情報の公表

法人の業務及び財務状況やサービス内容・苦情等の内容及び結果・対応策等を閲覧や「鹿寿苑だより」「鹿寿苑ホームページ」により、情報開示を行う

VII. 年間行事

	特別養護 老人ホーム	グループホーム	デイサービス	第二鹿寿苑
4月	お花見会	お花見会	お花見会	お花見会
5月				
6月	レクレーション大会		運動会	
7月	七夕・夏祭り	七夕		七夕
8月	追悼法要 花火大会		夏祭り	夏祭り
9月	敬老会	敬老会	敬老会	敬老会
10月	秋祭り			
11月				運動会
12月	クリスマス会	忘年会	忘年会・クリスマス会	忘年会・クリスマス会
1月	新年会	お楽しみ会	書初め	正月遊び 書初め
2月	節分	節分		節分
3月	ひな祭り 感謝祭	ひな祭り	感謝の集い	ひな祭り
備考	誕生会（誕生日） 生花クラブ（月2回） ドライブ（随時）	誕生会（毎月） 外出等（随時）	健康・栄養講座 法話	クッキング・ド ライブ（随時）

VIII. 各種会議

会議名	回数
職員会議	2回／年
合同会議（係代表者会議）	1回／月

課長会議	1 回／月
入居者ケース会議	2 ～ 3 回／週
各係会議	1 回／月
フロアー会議	1 回／月
主任・副主任・リーダー会議	1 回／月
多職種会議（特養・第二）	1 回／月
各委員会会議	1 ～ 2 回／2 ヶ月
運営推進会議（グループホーム・第二）	1 回／2 ヶ月
その他臨時会議	適時

※グループウェア活用による集合会議の省力化を実施